12

介護保険施設の HIV ケアと学校基盤の HIV 予防における拡大戦略の研究

研究分担者：佐保美奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）
研究協力者：下線はグループリーダー

1　看護職のボトムアップとエンパワメント

山田加奈子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）
高橋　弘枝（公益社団法人大阪府看護協会 会長）
千葉　鐘子（公益社団法人大阪府看護協会 専務理事）
中垣　郁代（公益社団法人大阪府看護協会 教育部）
扇田　千代（大阪府立・急性期総合医療センター 看護部）
久光　由香（近畿大学附属病院看護部 感染症看護専門看護師）
大野　典子（日生病院看護部 感染症看護専門看護師）
王　　美玲（大阪市立総合医療センター 看護部）
橋本　美鈴（大阪府立呼吸器･アレルギー医療センター 感染管理認定看護師）
鈴木　光次（看護師）
立花　久裕（訪問看護ステーション　町の看護師さん八尾）
上原　優子（国立榊原病院　精神保健福祉士）

2　介護保険施設における教育と研修のアプローチ

泉　　柚岐（信愛女学院短期大学 看護学科）
西口　初江（羽衣国際大学 人間生活学部）
雨師みよ子（一般社団法人大阪府訪問看護ステーション協会）
井内公仁子（まごころケアマネージャー事務所）
澤口智登里（大阪市北区保健福祉センター）
三田　洋子（市立堺病院 看護局）
豊島　裕子（大阪市立総合医療センター 看護部）
熊谷　祐子（みのやま病院 看護部）
岡本　友子（ハシイ産婦人科 看護部）
繁内　幸治（BASE KOBE 代表）

3　高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への教育と研修

古山　美穂（大阪府立大学大学院 看護学研究科）
北川未幾子（大阪府立大学大学院 看護学研究科）
橋弥あかね（大阪教育大学 教育学部養護教諭養成課程）
工藤　里香（京都橘大学 看護学部）
髙知　　恵（大阪府立大学大学院 看護学研究科）
池田麻衣子（大阪府教育センター附属高等学校 養護教諭）
眞弓　靖子（大阪府立緑風冠高等学校 養護教諭）
賀登さおり（大阪府立泉北高等学校 養護教諭）
鈴本　絵里（淀川キリスト教病院 看護部）
武長　純子（特定非営利活動法人ピープルズホープジャパン）
大川　尚子（関西福祉科学大学 健康福祉学部）

研究要旨

地域 HIV 看護の質の向上と拡大戦略に向けて、①介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施、② HIV サポートリーダー養成研修の受講生募集地域を大阪府内から近畿ブロックに拡大、③学校基盤の HIV 予防教育の強化のために、養護教諭養成課程を担当する教員との協力体制作りを行った。研究テーマである、介護施設への啓発と高等学校での HIV 予防教育を支える看護職のボトムアップについての基盤ができつつある。

研究目的

HIV 研修により看護職のボトムアップをはかり、介護保険施設における HIV 研修を企画・実施・評価する。HIV 予防については、学校・養護教諭と協働して、高校生への予防教育を拡大する。

研究方法

HIV 研修前後の知識・態度の変化をアンケート調査した。

（倫理面への配慮）

アンケートの実施にあたっては、学会や報告書において内容を発表することについて了解を得たうえで、協力は自由意志であること、匿名での記入であること、語った内容については、個人が特定されないように配慮すること、希望時は調査結果を知らせること、個人情報の保護について説明をおこなった。調査は大阪府立大学大学院看護学研究倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号 27 － 25）。

研究結果

Ⅰ 介護保険施設で勤務する看護・介護職への研修を企画・実施

1．大阪市内 A 地区において、介護職対象の研修を 2 回実施し、3 月に 1 回実施予定である。

2．研修内容

①第 1 回目

・「おつきあいのマナーかるた」でアイスブレイク
・ 前年度に開発した DVD（上映時間 25 分）上映
・ パワーポイントにて感染経路別にポイントを説明
・ コンドーム達人講座とセクシュアリティについて

②第 2 回目（女子大学生 3 名が協力）

・ 前年度に開発した DVD（上映時間 25 分）上映
・ パワーポイントにて感染経路別にポイントを説明
・ スタンダードプリコーションの実演
（マスク、手袋、使い捨てエプロン）

③第 3 回目（女子大学生 2 名、看護師 2 名が協力）

・ 大阪市保健所の保健師により、感染の動向について講義
・ パワーポイントで感染予防のポイントを説明
・ スタンダードプリコーションの実演（各自 2 回練習）
（マスク、手袋、使い捨てエプロン）
・ 消毒ジェル・保湿剤配布

3．結果・考察

アンケート調査結果の詳細は、山内班において報告予定である。スタンダードプリコーションに関する実技の希望が大きいので、第 3 回目は実技を 2 回ゆっくりと行ない、自信をつけていただきたい。

４．介護福祉士養成機関と都道府県介護支援専門員協会へのアプローチ

介護職対象の DVD を近畿ブロック内の養成機関 59 コースと 6 府県の介護支援専門員協会に配布した。

Ⅱ 看護職のボトムアップとエンパワメント

① 今年度も 2 回の HIV サポートリーダー養成研修（3 日間）を実施し、これまでの 13 回で受講者数は 229 名である。HIV 感染症の医学的な情報だけではなく、幅広くセクシュアリティ教育として「性の多様性」「思春期からの性感染症・避妊」の内容も含め、楽しいアクティビティを盛り込んだ楽しい研修という評判が広がってきた。詳細は、別添アンケート調査結果を参照。

自由記載欄の主な内容

最新の正しい知識	知識や認識が不十分 自分自身の偏見・差別・視野の狭さに気づいた 最新のコンドーム事情がわかった
現場に密着した臨場感のある内容	現場で働く医師や看護師、NPO、HIV陽性者が講師 現場の生の声が聞けて、印象が強かった 他人事、遠い話ではないと感じた
受け身でなく、参加型で視覚や体験に訴える研修内容	感染拡大の様子が実感できた 粘土や自由画で表現して気づくことが多くあった 自分の心や感情と向き合う時間になった 人の思いや考えを知ることができた 性教育って楽しいんだとはじめて思った
他の看護にも生かせる研修	患者に寄り添う姿勢やスキルを学んだ 患者さんの立場にたって考える柔軟な態度 セクシュアリティやアイデンティティの重要性 思春期からの性教育出前講義に関わりたい
楽しい研修	いつもよりよく笑った 参加者同士が打ち解けあえる工夫 少人数ならではの良さ さらに学び続けたい意欲

大阪府外からの参加者はこれまでの合計で 8 名であった。（京都、滋賀、兵庫、広島）

看護師養成機関においても HIV 感染症については十分な内容を教育されていないので、研修には看護学部生を含めて看護職のボトムアップを今後も図る。

研修の修了生には、出前講義への参加や HIV ネットワーク会議への参加を勧めている。研修の講師として講義をおこなう機会を今後も作っていき、一般の看護職が高校への出前講義や研修など、病院以外の場面で活躍できる場を提供する。

② 病院職員研修　9 月　淀川キリスト教病院 「性の多様性」について講演をおこなった。

③ 奈良県保健師職能集会での研修　10 月　保健師・助産師など約 50 名に講義をおこなった。

Ⅲ 高校生への HIV 予防啓発と養護教諭への研修

① 第 13 回 HIV サポートリーダー養成研修には、大阪府養護教諭会の研修を兼ね、22 名が 1 日目に参加した。

② 大阪教育大学を卒業した養護教諭への卒後研修で講義をおこなった。

③ HIV サポートリーダー養成研修修了者に出前講義等の登録希望調査を実施し、高等学校からの出前講義の要請にこたえていく。

④ 高等学校への出前講義　年間 15 校

考 察

介護保険施設での HIV 陽性者の受け入れを促進するための研修にはじめて取り組んだ。ストレスの高い介護現場では、入居者への虐待問題も数多く報道された 1 年だった。入居者へのケアの向上を図るとともに、介護・看護職が幸せになるための内容も研修に盛り込むことが必要である。自分のセックスライフが豊かになり、家族や子どもの性教育の知識も研修で伝えていく。

HIV サポートリーダー養成研修と高校生への出前講義、大阪府看護協会が主催する看護職研修、大阪府教育委員会が主催する研修、高校生への出前講義は、次年度以降も実施していく。

結 論

看護・介護・学校現場でのケアと予防の拡大のための基礎作りが出来つつあるので、残りの 2 年間は具体的な実践を粛々と続けていく。

健康危険情報

該当なし

研究発表

1．論文発表

該当なし

2．学会発表

佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、髙知恵、岡本友子、白阪琢磨：HIV サポートリーダー養成研修 7 年間の総括。第 30 回日本エイズ学会、2016 年 11 月、鹿児島

知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

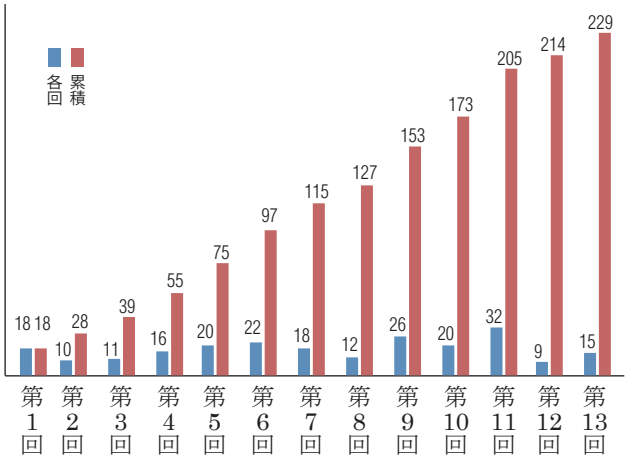
該当なし

HIV サポートリーダー養成研修のまとめ（第 13 回まで）

1．受講者数

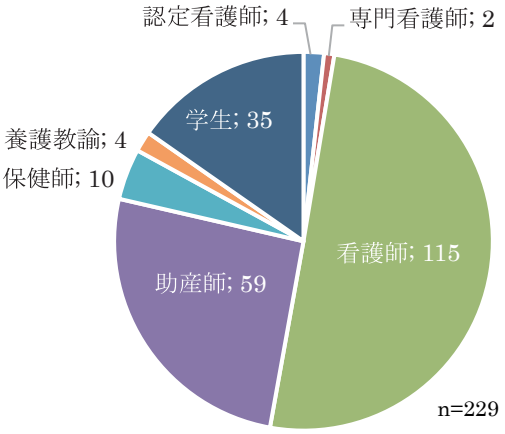
これまでの受講者数は229名である。

HIVサポートリーダー養成研修各回・累積受講者数

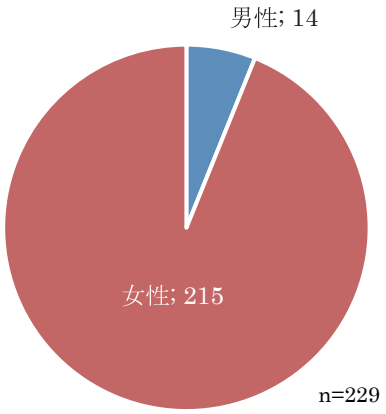


コメント：第13回には、大阪府養護教諭会の研修を兼ね、22名が1日目に加わった

2．受講生の職種



3．受講生の性別

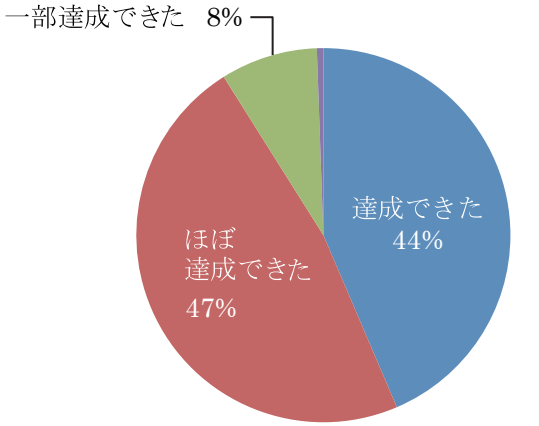


4．調査票の回収数

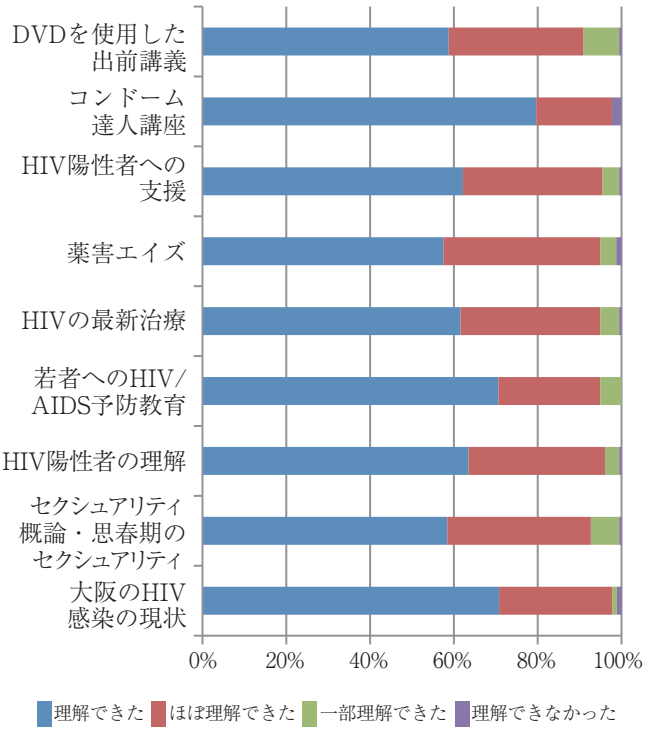
参加者229名　回収数203　回収率88.6％

5．研修目標の達成度

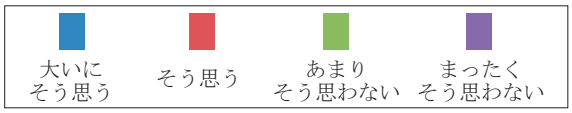
研修目標：セクシュアリティ、HIV感染症について広く学び、HIV陽性者への初期対応、高校生へのHIV予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る



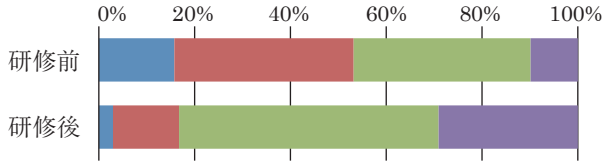
6．講義別理解



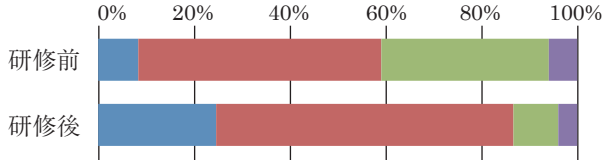
7. 態度の変化



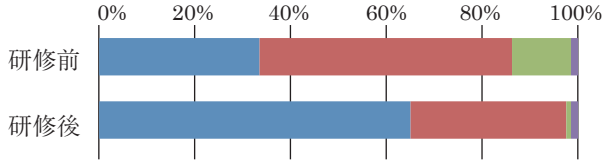
性のことを人前で話すのははずかしい



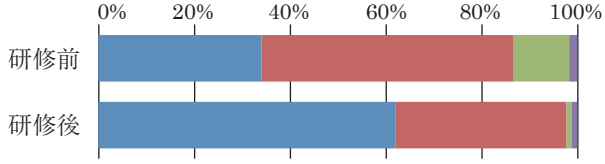
自分自身の性についてきちんとむきあっている



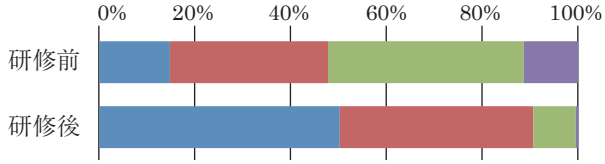
HIV看護について興味を持っている



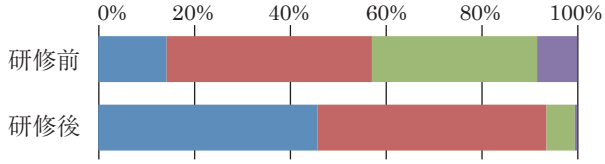
性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい



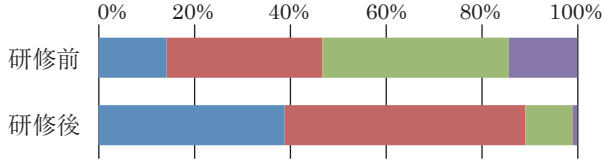
HIV予防教育出前講義に積極的に関わりたい



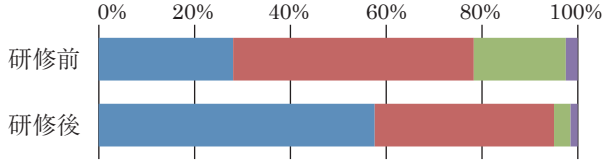
セクシュアルヘルスの増進について学びたい



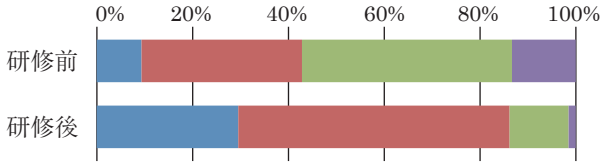
自施設で、HIV陽性者のケアへの準備をしたい



他者と深く関わることは喜びである



グローバルな広い視点で看護を考えている



8. 自由記載（平成 28 年度開催の第 12 回・第 13 回分のみ、原文のまま）

1）アクティビティー（フリスビー・感染シミュレーション・粘土制作・自由画）について

① フリスビーでのアイスブレイクも楽しかったです。感染シミュレーションは、大人でも実感しやすいと思いました。自分を表現することを言葉以外でしたことがなかったので、自由画や粘土はとても新鮮でした。また、他の作品を見て、多様性を実感することができました。

② 研修の中に、アクティビティーの内容を盛り込むのは、コミュニケーションがとれたり、改めて自分を振り返る機会ともなり、受けてよかったと思います。

③ フリスビーしなくても・・・と思っていましたが、それがきっかけとなり、他のみんなと話ができるようになって良かったと思いました。感染シミュレーションでは、感染の怖さを実感した。頭では理解できているが、体験したことで、自分も検査を繰り返し受けて、セルフチェックしていかなければ！！と思いました。

④ 自由画：自分の考えていることを書くこと、また、人前でしゃべることも苦手だったが、実際やってみることで、普段あまり考えていないようなことを考えたり、思い出したりして、自分自身の気持ちを振り返り、整理することができた。
フリスビー：相手と波長を合わすことが大切と思った。
感染シミュレーション：目で見て感染がわかるので、とてもよいと思った。わかりやすい！
粘土制作：粘土をさわることでいやされた。自分の考えを形にするのはすごくむずかしくとまどった。

⑤ 今回は人数も少なかったということで、早めにフリスビー＆自己紹介を入れていただいたほうが、1 日目の昼食時にコミュニケーションがとりやすかったと思いました。アクティビティーは机上講義より楽しく、リラックスできた。自分を表現するのが苦手なので、粘土制作や自由画は時間がかかったけれど、人の表現方法を見てとても勉強になったし、その人を知る機会となった。

⑥ 粘土制作・自由画：表現することが苦手でしたが、やってみると結構楽しかったのかも・・・　表現する力をつけられるよう視野も広げつつ柔軟性をもってやっていきたいと思いました。感染シミュレーションは、楽しいけど現実的で交流を図りながらできるので、機会があればやりたいと思いました。フリスビー：相手に

キャッチしてもらえるように飛ばすのが難しかった。色々工夫しながら、相手の方ともコミュニケーションをはかれたので、楽しかったです。初日の昼頃にあると良かったかも。

⑦ 粘土制作や自由画を通して、自分の心や感情と向き合う時間になった。感染シミュレーションは実際の感染予防教育の場で楽しくできそうだと思った。粘土制作は他の方の作品を見て、性について多種多様な考え方があると実感しました。性は多種多様でいいんだと若い人にいっぱい伝えたいと思っています。

⑧ フリスビーは「何のためにしたの？」という感じでした。でも、終了してから、一緒のペアになった人に話しかけられて、「あ～！これか」と思いました。ともに3日間学ぶ人とのつながりを得ました。感染シミュレーションは、現実的ではないレベルだなあ？けど、視覚的にすごくわかりやすいし、誰でも簡単になりうる、めずらしい病気・ウイルスじゃないという学びになりました。粘土や自由画は改めて自分をみつめ向き合えたかなと感じます。普段しない創作作業は心身とも、リフレッシュになりました。

⑨ 楽しかったです。表現することで学んだことを自分の中で消化し、表出することができたと思います。

⑩ 講義だけでは、頭の中がいっぱいになり、大切な事を忘れてしまいそうになるが、アクティビティーを取り入れていただいたことで、いつも以上に笑うことも多く、楽しい研修になりました。

⑪ 粘土や絵は苦手中の苦手！でしたが、やってみると「うまくいかないのでは？」とか「へたやしなあ・・・」と思わずに取り掛かることができて、そのこと自体がこの研修の効果（前向きな気持ちを育てる）として表れているように感じた。水の交流は、ただただびっくり。視覚に訴えるといういい教材を教えていただきました。フリスビーで、実は筋肉痛になった自分には、驚きました・・・

⑫ フリスビー：あとで少し筋肉痛になりました。感染シミュレーション：すごくいいと思います。イメージしやすく、心理的な想像もでき現実に近くイメージできました。粘土制作：自分が性についてどう思うか自覚できてよかったです。また他の人の思いも知れたのが学びになりました。自由画：自分がどう思っているかを自覚でき、かつ他の人の思いや考えを知れて、今の自分でいいことを感じることができました。

⑬ 私自身が学生の時は、講師の話を拝聴するスタイルの講義が多かったので、学ぶ側がアクションをする形式にはとまどいがありましたが、やってみると楽しかったです。でも実際の学校現場ではアクティビティの時間まで取れる講義は難しいかな？

⑭ フリスビーをすることで、距離感が近くなったように感じた。感染シミュレーションは学校への出前講義の際に、感染の広がりについて目で見て実感できる媒体だと思う。粘土や自由画も自分自身を考えるいい機会であるとともに、人の考え方を知るいい機会だと思う。

⑮ 感染シミュレーションは自分がHIV保菌者だったらという恐怖や、人へうつしてしまっていたことを知り、罪悪感がどういうものか実感できたり、どのように広がるか身をもって体験できてとても良かったです。粘土制作や自由画は得意・不得意が分かれるものではあるけど、苦手だとしても自分と向き合い、どのように感じたかフィードバックする機会にもなったし、他の人の感性や表現にふれられ、自分の視野がさらに広がったようにも感じました。またタイとか他国よりも性に対してオープンではない日本で行うには向いているようにも感じました。

⑯ 言葉で表すことが難しいことがたくさんあるので、作品を通して自分の気持ちを表現できたことは良かった。イメージしづらかったHIVの感染に関して、ゲームを通して直接関りがなくても感染するんだと実感した。

⑰ 自分自身としっかり向き合えるようになりました。

⑱ ただ漠然と考えている、受け手になっているだけでなく、直接相手と関わり、その時々で一生懸命考えたことを、何か形にして、他者に伝えるのは難しかった。けれど、同時にとても重要だと感じました。自分の気持ちや考えたことが整理され、相手へ伝えることの難しさ、伝えあうことの楽しさを学べました。

⑲ 粘土制作や自由画を通して言葉で考えていても難しいことを媒体を用いることで表現しやすかったなと思いました。また、他の方の考え方などを共有できることは楽しいことで、とても勉強になりました。感染シミュレーションは今までやったことがなく、実際に行うことで感染についてとてもわかりやすく学ぶことができました。

⑳ フリスビーを行なうことで、3日間一緒に授業を受ける人たちと仲良くなれたように思う。感染シミュレーションでは、自分の知らない間に感染しているということが、とても分かりやすく、将来養護教諭になることができたら、やってみたいと思った。粘土制作や自由画では、最初は何を作ろうかと悩んだけれど、文章ではなく自分のイメージを粘土や絵で表現することは文章よりももっと字運の気持ちを表すころができるし、自分を見つめなおす良い機会であったし、いろんな人の考えや感性を共有できたのが良かった。

㉑ 受け身の授業だけでなく、アクティビティがあることでより深く自分と対話できたり、他者とも仲良くなれたり、想像力をきたえることができて、とても良かったと思います。

㉒ 感染シミュレーションは、性的ネットワーク、知らないうちに感染しているということを身をもって体験することができました。検査薬を入れてから、色が変わ

るまでの間、すごくドキドキで、検査結果を待つ方の気持ちを少し理解することができたと思います。粘土制作では、人によって「性」の表し方がそれぞれ違い、多様な性があることは当然のことだと、改めて思いました。

㉓ フリスビーはあまりする機会がないため良かったが、くつ持参がネックだった。感染シミュレーションは、驚きと納得があり、すばらしかった。粘土制作・自由画について、もともととても苦手意識があるなかで、どうしようかなと不安に思うところはあったけど、何とかできたかなと思えた。ただ講義を聞くだけでなく、少しリフレッシュになった。

㉔ フリスビーを通して、参加者の方々と打ち解けることができ、その方々の活動に興味を持ったり、3 日間学びを共有する仲間として身近に感じられるきっかけになりました。感染シミュレーションでは感染が目に見えて理解でき、今までは HIV 感染は自分には関係がないと思っていましたが、自分にも関係がある問題だと気づきました。粘土を用いた作品、自由画には他の参加者の性のとらえ方が表されていて、性もその考え方も人それぞれだとわかりました。

2）研修全般や HIV 看護について

① 医療者（私も含め）の知識や認識も不十分で、それだけに偏見などもなかなかぬぐえず難しいところもたくさんありますが、正しい知識を自分から周囲へ発信していくことがまず一歩だと思いました。HIV 陽性者の方が他の感染症患者と同じように普通に医療をどこの病院でも受けられるように、自施設で声をあげていきたいです。三日間濃密な時間でした。ありがとうございました。

② HIV 看護については、今回の学びを振り返り、自部署にもどり伝達や指導をおこないながら、スタッフの意識が高まるよう努力したいと思いました。特に思春期での指導の大切さや大阪の現状、世間の認識不足など課題がたくさんあると感じましたが、その中でも自分が出来ることを明確にして計画的に取り組みたいと思っています。ありがとうございました。

③ 今までの自分の視野の狭かったことが良くわかった。全人的にと思っていたが、やはり一部分しか考えられてなかったのかと反省する場面もあった。大阪市立総合医療センターの HIV 看護の話を聴いて、患者さんの立場に立って考え、看護提供することをあらためて考えることになった。

④ 今回の研修はもっと人数が多いと思っていたので、少人数でびっくりしたが、参加されている人と話せたり、考えていることも聴くことができ、少人数ならではの良さを感じることができた。薬害被害者のお話を聴く機会があり、思いや考えを知ることができ、普段なかなか聞くことができないので、とてもためになった。HIV について、今回深く学べたので、大変勉強になりました。

⑤ 患者さんの話が何よりも胸にズキューンときた。私もまだまだナースとしても人としても学ばなければ！！と感じた。HIV 看護に関しては、古い知識が一掃され、本当に研修で目からウロコの話が聞けて勉強になった。コンドームの装着、最新のコンドームの事情も知らないことが多かったので、楽しくたくさん学べました。毎日、楽しかったです。

⑥ 基礎知識だけでなく現場の声、患者さんからの生の声を聴くことができて良かったです。わかっていても、自分の中に差別意識があったことも今回の研修を通して知ることができました。考え方に柔軟性を持ち、ナースとして患者と寄り添うことのスキルを今回ゲットすることができたと思います。3 日間、本当に楽しく学ぶことができました。ありがとうございました。

⑦ HIV の看護は思っていた以上に幅が広く、自分自身の広がりや知識は無限大に必要だと思った。感染症としての HIV 予防、治療だけでなくセクシュアリティや患者さんのアイデンティティの問題など、どれをとっても大切で、誰にでもサポートは必要であると感じた。医療だけでなく、社会的な側面について学びたいと思いました。

⑧ 時々入院される HIV 患者さんの理解につながればいいな。将来的には養教、保健師をしたいし、知識の一つになればいいな。という気持ちで参加しましたが、3 日間の研修で本当に多くを学べました。看護師として働いているので、看護について考えること、聞けることはあっても、患者さんの生の声や先生から直接治療について聞くことはめったにないので、貴重な経験になりました。コンドーム講座もすごくためになりました。もっとオープンに性と接することができたら（できるパートナーが見つかったら）いいなあと思います。

⑨ HIV 感染と同性間性的接触は大きな関連があることは知っていたが、今、マイノリティ教育を HIV 教育と合わせて実施することの重要性を改めて実感した。今後実践に生かしたい。

⑩ 私はまだ HIV 看護を学び始めたところで、HIV 患者さんとお話ししていても患者さんから教えてもらうことも多く、そんな私を看護師さんとして認めてくださってる患者さんに感謝しています。薬害エイズの講義で最後に、看護師は身近な存在なので話を聴ける看護師でいてください、とおっしゃられた言葉が心に響きました。これからも HIV を勉強し、患者さんの思いや悩みを聞いて解決していきたいと思います。

⑪ 自分の中にある偏見やものの考え方はすぐには変化しないけれど、「あ、私の今の考え方、やっぱり少し偏ってるよなあ、、、」とか自分のパターンに気づきつづける。

そして、気づいていることの大切さを人に伝え続けることが、今の私にできることと感じました。知識のアップデートは常に必要だと思いました。この研修は毎回出席しつづけたいと思うほど、充実していて、自分の知識がかなり古いことを痛感しました。看護の実際、教育の実際についても、たくさんうかがうことができて勉強になりました。

⑫ こんなに内容が充実した研修を開催していただいて、感謝しかないです。3日間は思っていたよりきつかったですが、それだけ奥が深い分野でもあり、知識がついただけでなく、自分自身が変わることができました。自分自身はマジョリティの立場でいたことも気づかされました。まずは自分の病棟で周知していきたいことと、もしどこかで自分が役立てる活動ができたらと思います。本当にありがとうございました。

⑬ 今までのHIVやエイズの知識が古すぎて、意識を新たにできたことはたいへん良かったです。「HIVに感染しています」という方に初めてお目にかかれたことも貴重な体験でした。学校現場にいるので、直接看護には関わることはないですが、将来の医療職にはアプローチできるかと思うのでがんばっていきたいです。

⑭ ３日間、本当に当事者の方や実際に活動しておられる方の生の声をきくことができて、充実した日々を過ごすことができました。HIVに関しては、興味はあったが３日間学んで新たに知ったこと、なんとなくイメージだったものが、はっきりわかるようになったと思う。看護についてもHIVだけではなく、他の対象者へも共通するものがあったと思うので、生かしていきたいと思います。

⑮ とても楽しく学ばせてもらいました。得たものがとても多くて、１日や２日では処理しきれないかもしれませんが、この３日間感じたことを大切にして自分のものにしていきたいと思いました。出前講義にも興味があるけど、今の自分が３日間で出会えた講師の方々のように聞き手をひきつけ、視野を広げられるような講義を行なえるか不安です・・・　練習などあれば、またぜひ参加したいと思いました。

⑯ まだまだ私の知識が少ないことがわかった。将来医療者とのなるので、もっともっと知識をつけなければいけないし、高校生や中学生、できるなら大学生にも、もっと知識をつけてもられるように性教育をしていく必要があると思った。

⑰ 予想した以上に、大きな学びがあり、感謝です。現場で活躍されていらっしゃる先生たちのお話から、対象者との関わり方はもちろん、視野が広がったことを実感しております。研修に参加できて、とても良かったなと、自分の成長を実感しました。ありがとうございました。

⑱ 今まで性を伝えるという立場に立たせてもらうことや、性感染症について話させてもらっていながら、どこかHIVについて偏見や他人事と感じながら、話していたかもしれないと反省しました。新しく学んだこと、感じたことを、また誰かに伝えることで自分の糧にもしていきたいなと思います。ありがとうございました。

⑲ HIVやエイズについて授業で学んでいましたが、少し自分には遠い話のような気がしていました。しかし、身近なものであるということがわかりました。大阪での現状についてやHIV陽性と分かった方や検査を受けるまで、HIVを抱えながら生活していらっしゃる方のお話を聴くことができ、苦悩や不安、社会での受け入れにはまだまだ課題があることを知りました。今後もHIV, エイズについて学びつづけていきたいと思いました。

⑳ 学校の授業だけでは、そこまで興味を持つことができなかったが、今回の３日間の研修を受けて、HIVについて知識も増えたことで、興味関心も増えた。大学生は性交渉をする機会も多いと思うが、看護学部でなければ、大学でHIVについて考える機会も少なく知識も少ないと思うので、もっとみんなにHIVについて知って欲しいと思った。また、高校で性教育やHIVの予防について授業したいと思うようになった。

㉑ この度、自分の働く精神科と全くジャンルの違うHIV看護研修に参加させていただき、幅広く深く学ぶことができてとても有意義でした。自分のみのまわりにもゲイの人はいますが、とても良い人で、でもやはり世の中に生きづらさを感じているので、そういう人たちのためにも何か自分にできないかと思いました。HIVの偏見を少しでもなくしていけるよう、関わっていきたいです。

㉒ 研修前はHIV看護について、あまり興味がありませんでしたが、現状や当事者の思いを知り、私もこの分野でこまっている人の役に立ちたいと思うようになりました。自分の経験を振り返っても、高校や中学校での性教育は決して十分なものとは言えなかったと思います。この研修で「性教育ってこんなに楽しいんだ。」と思うことができ、この体験をぜひ多くの人にしてもらいたいし、自分もここでの経験を何らかの形で子どもたちに還元したいと思いました。３日間ありがとうございました。

㉓ ３日間の研修、新しい内容が入るたびに、頭の中がパンクしそうでした。濃い３日間でHIVについて様々な考えがあるなと思いました。HIV看護について、何もしらない人（自分も含め）もいると思うので、正しい知識を提供して、差別などがなくなればと思います。近くでHIV看護について教えてくれる人がいればいいと思います。

㉔ 研修を通して、HIV看護の重要性に改めて気づくことができました。どの講義もすばらしく、受講できて良

かったです。お誘いいただいた先生にとても感謝しています。ありがとうございました。現場で働かれている看護師さん、助産師さん、養護教諭の方々とも出会えてよかったです。

9　研修後の修了生の活動について

①自施設での伝達講習や勉強会の開催

研修後は職場で伝達講習を行なった者や、中学高等学校に出向いて、中高生に性教育をおこなった者がいた。また、ゲイのミーティングに参加した者もいた。自施設の看護師や医師と協力して、HIV/AIDS の診断・治療について勉強会を開催した者もいた。

②中高生への出前講義の見学・部分実施・主になって実施

研修後に複数回見学のあと、部分的に実施したり、50 分の授業を 1 人で実施したり、活動が広がった。

③ HIV サポートリーダー養成研修の講師

研修終了後に講師として「セクシュアリティ概論」「思春期のセクシュアリティ」「DVD を使用した出前講義」「コンドーム達人講座」を担当した。今後も、修了生が興味のある講義について、担当できるように調整したい。

④地域 HIV 看護研究班のメンバーとしての活動

班会議に参加して今後の活動を提案したり、介護職対象の研修を企画している。

10　研修修了バッジ

研修修了生が、名札や白衣の襟に着けて、HIV 予防啓発についてアピールできるようにオリジナルのバッジを作成した。ロゴの「やるやん、大阪」は、第 1 回目の修了生の 1 人が、最終日の自由画発表の際に発したことばである。「大阪は HIV 感染者が増加しつづけているが、少しずつ予防啓発活動を継続して、他の地域から、『やるやん、大阪』と言ってもらえるように、がんばりたい」という修了生のことばを忘れないで、身近な人たちへ、できるところから HIV の予防とケアについて伝えていきたい。

第 12 回　HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期　間	平成 28（2016）年 6 月 9 日（木）～6 月 11 日（土）		
対　象	看護師・助産師・保健師・養護教諭・看護学部生		
場　所	大阪府看護協会　桃谷研修センター		
募集人数	男女 30 名	受講料	無料（交通費は自己負担）

プログラム

	1　9:30-11:00	2　11:00-12:30	3　13:30-15:00	4　15:00-16:30
第 1 日	近畿・大阪の HIV 感染の現状	セクシュアリティ概論 思春期のセクシュアリティ（健康課題）	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	フリスビー 自己紹介 研究班の取り組み
第 2 日	HIV の最新治療	薬害エイズ	若者への HIV/AIDS 予防教育 （タイ　チェンマイでの成功事例）	
第 3 日	DVD を使用した出前講義	HIV 陽性者の理解と初期対応	コンドーム達人講座	自由画 まとめ

講　師

講義名	講師名	施　設	職　位
近畿・大阪の HIV 感染の現状	安井典子	大阪市保健所感染症対策課	係長
セクシュアリティ概論	田村凌	はやしやまクリニック	看護師
思春期のセクシュアリティ（健康課題）	大久保倫世	耳原総合病院	助産師
HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	繁内幸治	BASE　KOBE	代表
地域ＨＩＶ看護の質の向上への戦略	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科	准教授
HIV の最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター	エイズ先端医療研究部長
薬害エイズ	藤原良次	りょうちゃんず	理事長
若者への HIV/AIDS 予防教育	南部道子	ピープルズ・ホープ・ジャパン	広報部長
DVD を使用した出前講義	大野典子	日生病院看護部	感染症看護専門看護師
HIV 陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター	HIV 専従看護師
コンドーム達人講座（知識と技術）	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾	管理者

本研修は、日本エイズ学会の HIV 感染症研究会の教育研修単位認定（学会認定医・指導医および学会認定 HIV 感染症看護師・指導看護師、3 単位）の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「ＨＩＶ感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者：白阪琢磨）の分担研究「介護保険施設の HIV ケアと学校基盤の HIV 予防における拡大戦略の研究」（研究分担者：佐保美奈子）の研究費により、大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

第 13 回　HIV サポートリーダー養成研修

研修目標	セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る		
期　間	平成 28（2016）年 10 月 6 日（木）～10 月 8 日（土）		
対　象	看護師・助産師・保健師・養護教諭・看護学部生		
場　所	大阪府看護協会　桃谷研修センター		
募集人数	男女 30 名	受講料	無料（交通費は自己負担）

プログラム

	1　9:30-11:00	2　11:00-12:30	3　13:30-15:00	4　15:00-16:30
第 1 日	近畿・大阪の HIV 感染の現状	セクシュアリティ概論 思春期のセクシュアリティ（健康課題）	コンドーム達人講座	フリスビー 自己紹介 研究班の取り組み
第 2 日	HIV の最新治療	薬害エイズ	若者への HIV/AIDS 予防教育 （タイ　チェンマイでの成功事例）	
第 3 日	DVD を使用した出前講義	HIV 陽性者の理解と初期対応	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	自由画 まとめ

講　師

講義名	講師名	施　設	職　位
近畿・大阪の HIV 感染の現状	桧山智香子	大阪府健康医療部 保健医療室　医療対策課	主査
セクシュアリティ概論	田村凌	はやしやまクリニック	看護師
思春期のセクシュアリティ（健康課題）	岡本友子	ハシイ産婦人科	助産師
コンドーム達人講座（知識と技術）	立花久裕	訪問看護ステーション 町の看護師さん八尾	管理者
地域ＨＩＶ看護の質の向上への戦略	佐保美奈子	大阪府立大学看護学研究科	准教授
HIV の最新治療	白阪琢磨	国立大阪医療センター	エイズ先端医療研究部長
薬害エイズ	早坂典生	りょうちゃんず	副理事長
若者への HIV/AIDS 予防教育	南部道子	ピープルズ・ホープ・ジャパン	広報部長
DVD を使用した出前講義	大野典子	日生病院看護部	感染症看護専門看護師
HIV 陽性者の理解と初期対応	豊島裕子	大阪市立総合医療センター	HIV 専従看護師
HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	繁内幸治	BASE　KOBE	代表

本研修は、日本エイズ学会の HIV 感染症研究会の教育研修単位認定（学会認定医・指導医および学会認定 HIV 感染症看護師・指導看護師、3 単位）の対象であり、厚生労働省エイズ対策政策研究事業、「ＨＩＶ感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者：白阪琢磨）の分担研究「介護保険施設の HIV ケアと学校基盤の HIV 予防における拡大戦略の研究」（研究分担者：佐保美奈子）の研究費により、大阪府看護協会の協力を得て、開催されているものです。

第 13 回　HIV サポートリーダー養成研修　調査票

研修、お疲れ様でございました。この調査は、皆様のご意見を取り入れて、次年度の研修計画の検討をさせていただくために実施するものです。この調査の結果については、厚生労働科研の報告書や関連学会で発表する予定ですが、個人が特定されるようなことはありません。報告書は次年度の６月に発行されますので、ご要望があれば、郵送いたします。記入後の調査票を、回収箱に投入していただくことによって、調査への同意とさせていただきます。

次の１～３について、項目ごとに該当する番号に○印をつけてください。

１．研修目標の達成度について

研修目標 : セクシュアリティ、HIV 感染症について広く学び、HIV 陽性者への初期対応、高校生への HIV 予防出前講義に必要な態度・知識・技術を得る

１達成できた	２ほぼ達成できた	３一部達成できた	４達成できなかった

２．講義の内容について

	【理解の程度】 １．理解できた　2. ほぼ理解できた　3. 一部理解できた　4. 理解できなかった	
１日目	大阪の HIV 感染の現状	１・２・３・４
	セクシュアリティ概論 思春期のセクシュアリティ（健康課題）	１・２・３・４
	HIV 陽性者の理解と　初期対応	１・２・３・４
２日目	HIV の最新治療	１・２・３・４
	薬害エイズ	１・２・３・４
	若者への HIV/AIDS 予防教育	１・２・３・４
３日目	DVD を使用した出前講義	１・２・３・４
	コンドーム達人講座（知識と技術）	１・２・３・４
	HIV 陽性者の支援（地域、ピア）	１・２・３・４

３．研修前後の自分自身の態度の変化について

１．大いにそう思う　２．そう思う　３．あまりそう思わない　４．まったくそう思わない		
	研修前	研修後
１性のことを人前で話すのは恥ずかしい	１・２・３・４	１・２・３・４
２自分自身の性についてきちんと向き合っている	１・２・３・４	１・２・３・４
３HIV 看護について興味を持っている	１・２・３・４	１・２・３・４
４性欲は基本的な欲求の一つであり大切にしたい	１・２・３・４	１・２・３・４
５HIV 予防教育の出前講義に積極的に関わりたい	１・２・３・４	１・２・３・４
６セクシュアルヘルスの増進について学びたい	１・２・３・４	１・２・３・４
７職場で、HIV 陽性者のケアへの準備をしたい	１・２・３・４	１・２・３・４
８グローバルな広い視点で看護を考えている	１・２・３・４	１・２・３・４
９他者と深く関わることは喜びである	１・２・３・４	１・２・３・４

4．アクティビティー（フリスビー・感染シミュレーション・粘土製作・自由画）についての感想をご自由にお書きください。

5．研修全般や HIV 看護についてのご意見をお書きください

調査票へのご記入をありがとうございました。